

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム  
実施状況および成果

プログラム名	マレーシアアトラ大学のELS語学センターにおける夏期英語集中プログラム	
学部・研究科名	全学教育機構	
プログラム実施期間	2019年8月8日～9月9日	
研修先(国・都市・施設名)	マレーシア・セランゴール・マレーシアアトラ大学	
	参加学生数 24名	知の森からの支援者数 16名
プログラム概要	本プログラムは、本学の協定校であるマレーシアアトラ大学（以下UPM）に併設されているELS語学センターが主催する約1ヶ月間の英語プログラムである。具体的には、学生が長期海外留学へ向けたモチベーションを向上させる上で鍵となる、長期留学のベースとなる英語力およびグローバルマインドを育成することを目的としている。本学の学生を参加させ、英語の四技能を集中的に訓練し、さらには、語学研修中に諸外国から来ている学生との異文化間交流を通してグローバルマインドをはぐくむことを最終目標とする。研修開始前には数回の事前研修を行い、研修終了後には反省会を兼ねて事後研修とTOEIC IPを用いた達成度検証を実施することで、プログラムの成果を可視化できることも、このプログラムの長所として挙げられる。さらに研修参加後に報告会を実施し、プログラムの成果と課題を関係者で共有し、今後のプログラムのあり方についても検討する。	

実施状況・成果

令和元年8月8日(木)に成田空港に24名の学生と引率教員2名が集会した。今回は日本航空便を利用するグループとマレーシア航空を利用するグループに分かれてクアラルンプールへ向かった。参加者が多かったため、途中で数名がはぐれるなどの些末なハプニングはあったが、入国、移動共に思いのほかスムーズに完了した。また、語学学校のスタッフがUPMのバスで迎えに来て、宿泊先へのチェックインをサポートしてくれたため、学生たちはスムーズに宿泊先へと到着した。翌日の8月9日(金)にブレースメントテストが実施され、その結果に基づいてクラス分けが行われた。授業は英語で実施され、授業中に英語で発言することを求められることが多かったせいか、学生たちも徐々に英語を使って意志を伝えることの重要性を学んでいった。また、クラスメイトに日本人以外の人が多かったことも、異文化間コミュニケーションのツールとして英語を用いることの重要性を身をもって理解することに貢献したように思われる。授業のない週末には、マレーシアの文化に触れるため、世界遺産であるマラッカや政府の機能が存在するプトラジャヤなどを訪問し、見聞を広めた。学生たちにとっては特にイスラム文化に触れたことが新鮮な体験になったようである。

残念ながら、参加者の1名が、精神的な不調を訴え、研修を断念して帰国するという事態が起こった。UPMのスタッフによるサポート、また、全学教育機構長をはじめとする本学スタッフの尽力もあり、当該参加者は問題なく帰国することができた。また、参加者の1名がデング熱に罹患するというハプニングもあった。これに関しては、別の参加者による付き添いや援助により現地での入院・治療を受けることができ、数日後に回復した。

今回の研修をきっかけに、長期留学に興味を持ってくれた学生が数名いたようであり、これは引率者として大変喜ばしいことである。英語圏ばかりに目を向けるのではなく、マレーシアのような東南アジアの新興国での研修を通して、真のグローバル化とは何か考える機会を得たことから、非常に有意義な研修だと言える。今後TOEIC IPテストを受験してもらい、研修の成果を測りたいと考えている。

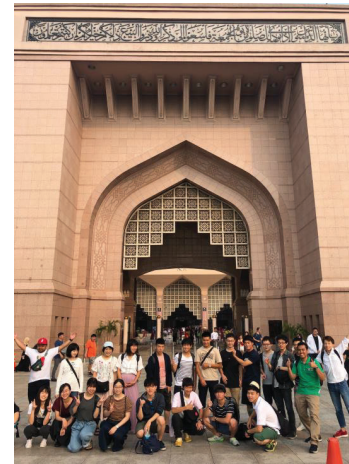
学生の声①-人文学部 学生

学内外で多文化・多民族に触れ、視野を広げることができた。また、何より初対面の人や母語が違う人とも抵抗なく話せる度胸がついたことが、このプログラムに参加して一番良かったことだ。この経験は必ず将来役に立つと思う。

学生の声②-繊維学部 学生

英語において、自分の改善すべきところがはっきりしました。この時期に海外で英語の学習ができたことは自分にとってとても大きいです。そして何より、後期以降の学習に対するモチベーションが維持できました。

プトラジャヤにて



伝統文化との交流

